

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：34507

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20730516

研究課題名（和文） 多文化共生社会における市民性を育てる教育の理論と実践の研究  
— 自尊感情の観点から研究課題名（英文） A Study of Theory and Practice of Education for Nurturing Citizenship  
in Multicultural Society: From the Viewpoint of Self-esteem-

研究代表者

野崎 志帆 (NOZAKI SHIHO)

甲南女子大学・文学部・准教授

研究者番号：90351759

研究分野：教育社会学

科研費の分科・細目：学校教育

キーワード：多文化共生社会, 市民性, 人権, 自尊感情, イギリス

## 1. 研究計画の概要

国内の国際化、多文化化、価値の多様化の進展に伴う規範意識の変化、年少者の公共意識の希薄化、「いじめ」など、現代の教育課題に応えるために、「市民性教育/citizenship education」の理論と実践を「自尊感情 (self-esteem)」という観点から考察することによって、「日本型市民性教育」を開発しようとするものである。そこで、(1)これまでの申請者の研究成果を、英国における市民性教育と「PSHE/Personal social and health education」の理論と実践を準拠枠に検証し、(2)多文化共生社会の市民に不可欠な、平等や公正、非暴力、公共性などの規範意識を含む態度、および知識・スキルを、特に初等・中等教育の現場で戦略的に育成するための仮説としてのカリキュラム（発達課題と教育的関与）を作成し、これを実際に教育現場（小・中・高校一貫校）で検証すること、そして(3)これからの日本の初等・中等教育における市民性育成のための教育カリキュラムを示すと同時に、具体的な実践開発の課題を明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

(1)2008年度：英国におけるPersonal Social and Health Education (PSHE)、および、市民性教育(Citizenship Education)の二つの連動に着目し、これらの教育に関わる文献の研究レビューを行なうことで、近年の英国が「私」と「公」の両者のバランスをとりつつ、「多様性と民主主義的価値観を尊重するよき市民」の育成にどのような経緯を経て向き合い、自尊感情やアイデンティティ、子どもの社会的スキル、公共性、学力、民主主義的価値観にまつわる課題を、学校カリキュラム

を通してどのように克服しようとしているのかについて検討した。

(2)2009年度：大学での在外研究期間を利用し、英国にて市民性教育および PSHE における自尊感情と人権意識や市民意識の関連について研究者への意見聴取、いくつかの学校にて質的調査を行った。

(3)2010年度：2009年度後半に英国で集めたデータの整理、分析を行う。また、2008年度の文献調査をもとにしたいくつかの研究結果を発表した。

## 3. 現在までの達成度

## ④やや遅れている

(理由)

2009年度に英国で行った調査が、当初の計画よりも広範囲におよび（その必要性があったため）、そのデータの整理と分析に予想以上の時間がかかっている。そのため、当初計画していた、日本における市民性教育の仮説としてのカリキュラムの検討が完了していない。

## 4. 今後の研究の推進方策

イギリスの市民性教育および PSHE の理論と実践を日本型市民性教育として検討していく際には、日本の道徳教育を含めて広く検討する必要がある。カリキュラム作りに拙速にとりかかるよりも、文献調査および英国で集めたデータの精査と分析を丹念に行うことを重視し、まずは初等・中等教育における市民性育成のための教育カリキュラムづくりをめざす。当初計画していた私学の小・中・高校一貫校で実践しながら検証するプロ

セスについては、今回の研究では見送ることにする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①野崎志帆「市民性教育における人権と国際理解教育の課題-『普遍的人権を学ぶこと』再考-」『国際理解教育』17, pp.77-86, 2011年(6月に刊行予定), 査読有